わが社のCSR 社会的責任 vol.91

現場見学とインターンシップで高校生が実務を体験。地域企業にも協力を呼び掛け

㈱古川土地（宮城県大崎市）

宮城県大崎市で賃貸・売買仲介や建設事業を手掛ける㈱古川土地（代表取締役：早坂竜太氏）は、地元の宮城県古川工業高校の建築科で学ぶ高校生に建設現場を体験してもらおうと、現場見学とインターンシップの実施を提案。生徒に現場体験の機会を提供している。

新築現場で構造見学などを実施。接客マナー教育も

同校同科卒業生で同社代表取締役の早坂氏は、建築科といえども実際の建築現場で学ぶ機会は多くないと感じていた。そこで、現場を体験できる機会を提供したいと、同校に現場見学とインターンシップの実施を提案。快諾されたことから、2004年からこれらの取り組みを開始した。

1年生には、木造住宅、2・3年生には鉄骨造・鉄筋コンクリート造の現場を提供するなど、学びのステップに合わせた見学会を実施。インターンシップは、毎年2年生の約30人が参加を希望。具体的には、大型施設の新築現場の見学や住宅展示場での接客、設計提案のロープレなど、建設業の実務をまんべんなく学べるようプログラムを組んでおり、電話の取り方やお茶の出し方など、社会では常識のマナーも含めて多岐にわたる会社の業務を体感してもらっている。

㈱古川土地
代表取締役社長
早坂 竜太 氏

インターンシップに参加した高校生からは「授業で勉強した技術が実際に現場で使われていたのを見られて嬉しかった」などの感想が寄せられているそう。また、「不動産業務をはじめとした幅広い職業で、建築の知識が必要になってきます。高校生が、将来どのような職業に就いても、ここで学んだ知識を生かしてほしいですね」（早坂氏）。

高校生たちが普段の授業ではなかなか見ることができない建築現場を間近で見学する（写真提供：㈱古川土地）

同氏は卒業生の人脈を生かし、設計事務所や大手住宅メーカーの支店、市役所の建築関係部署などにもインターンシップへの協力を呼び掛けた。その甲斐あって、今では同校のインターンシップ受け入れ先が20社程度まで増え、地域ぐるみでの取り組みになっている。

「担当の先生からは、『インターンシップ期間終了後は、授業を受ける姿勢が変わりました』など感謝の言葉をいただいています。大人が真剣に仕事に取り組んでいる姿を見せることで、高校生たちが将来の自分の姿をより具体的にイメージできるようになってほしいですね」（早坂氏）。

河北新報〔平成26年5月22日（木）〕

E かお

文化的な暮らしを応援

古川土地社長
早坂　竜太さん

JR古川駅前の自社ビルに「大歓迎!! セントラル自動車様　関連企業様」の大垂れ幕を掲げたのは、2007年のことだった。

「神奈川県から大衡村に本社工場を移したセントラル自動車の関係者は、不安でいっぱいだったでしょう。駅に降り立って垂れ幕を目にし、心を和ませてくれたら」と、当時の思いを振り返る。

垂れ幕は大崎市民へのメッセージでもあった。「新しく来た人たちと共に地域を盛り上げましょう」と呼び掛けたのだ。

不動産業だからといって、土地の分譲とアパートの仲介だけでは、市民の本当の幸せに資することはできないと言う。「誰もが健康で文化的な暮らしを享受できる社会にしたい。私だけ頑張っても実現不能なので、皆さんに呼び掛けるのです」

はやさか・りゅうた
大崎市出身。古川工高卒。85年に古川土地に入社。96年に取締役、02年に社長就任。座右の銘は「一灯照隅　万灯照国」。妻、母と3人暮らしで、小旅行が趣味。

昨年、廃業後10年余も放置されていた市中心部のホテルを取得した。地権者と粘り強く交渉し、ホテル解体後は災害公営住宅の建設用地にする道筋を付けた。メガソーラー事業にも進出した。環境教育の場としての役割も担う計画だ。大崎市在住者や出身者に出資を募り、収益還元には地元特産品を活用する。

「自分の会社だけもうかってもだめ。地域全体を元気にしたい」と意気込む。